

(様式第10)

防人衛第22882号
令和4年12月7日
開設者名 防衛大臣 浜田 靖一

厚生労働大臣 殿

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
氏名	防衛大臣 浜田 靖一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

防衛医科大学校病院

3 所在の場所

〒359-8813 埼玉県所沢市並木3丁目2番地
電話 (04)2995-1511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
アレルギー疾患内科またはアレルギー科及びリウマチ科の診療は、膠原病内科において提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	膠原病内科	2	抗加齢血管内科	3	肝・胆・膵外科	4	麻酔科	5	形成外科
6	腫瘍化学療法部	7	緩和ケア室	8	リハビリテーション部	9	総合臨床部	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
36	10	0	0	754	800	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	147	2.7	149.7
歯科医師	6	0	6
薬剤師	21	1.6	22.6
保健師	0	0	0
助産師	13	1.2	14.2
看護師	414	23.3	437.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	3	0	3

職種	員数
看護補助者	30
理学療法士	3
作業療法士	2
視能訓練士	5
義肢装具士	0
臨床工学士	11
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	26

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	34
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	1	
その他の技術員	11	
事務職員	90	
その他の職員	35	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	34	眼科専門医	7
外科専門医	27	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	8	放射線科専門医	12
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	11
産婦人科専門医	12	救急科専門医	8
		合計	184

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (塩谷 彰 浩 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	285.5 人	3.7 人	289.2 人
1日当たり平均外来患者数	1048.3 人	43.1 人	1091.4 人
1日当たり平均調剤数	615		剤
必要医師数	67		人
必要歯科医師数	2		人
必要薬剤師数	8		人
必要(准)看護師数	182		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	人工呼吸装置	心電計	心細動除去装置
集中治療室	203.2 m ²	鉄筋コンクリート	11 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	52.3 m ²	病床数	4 床	
	[移動式の場合]	台数	10 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	37.8 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	252 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置		
細菌検査室	270 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO ₂ 培養器		
病理検査室	252 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置		
病理解剖室	164 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽		
研究室	18,661 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム		
講義室	5,435 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	1,200 人
図書室	3,023 m ²	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数	約19万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	110.2	%	逆紹介率	61.8	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		13,342		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,911		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,529		人
	D: 初診の患者の数		14,400		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
斉藤 祐次	所沢市薬剤師会 顧問	○	医療に関する見識を有する者	無	1
大館 千歳	国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護部長		医療に関する見識を有する者	無	1
島戸 圭輔	二番町法律事務所(弁護士)		法律に関する見識を有する者	無	1
奈良 信和	自治体職員		医療を受ける者	無	2
根本 孝一	永仁会入間ハート病院		医療に関する見識を有する者	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
防衛医科大学校病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	大腸癌術後ドレーン排液中および血中炎症性サイトカイン濃度による再発予測	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 サイトカイン濃度は術中に腹腔内に散布された遊離癌細胞や腫瘍剥離面付近に遺残した癌細胞の再活性化や浸潤増殖に影響する可能性がある。今回の検討ではドレーン排液および血中の炎症性サイトカイン濃度の測定による再発予防法を開発する。			
医療技術名	大腸癌生検組織を利用した癌悪性度評価及び予後予測	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 内視鏡下生検組織により癌の悪性度予測が可能となり、手術前の治療方針決定に利用できる等、臨床的意義は大きい。			
医療技術名	滲出型加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子療法における前房水中サイトカイン濃度モニタリングの有用性に関する検討	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 滲出型AMDの寛解及び増悪時において関与する炎症性サイトカイン濃度をモニタリングすることで、BCVA及びCMTに加えた滲出型AMDの病態を予見しうる新たな治療指標となる前房水中サイトカイン濃度モニタリングを開発する。			
医療技術名	血中Mesothelinに着目した新規腫瘍マーカーの開発	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 血中Mesothelin測定が切除標本のMesothelin発現と一致するか、他の腫瘍マーカー及び各種画像検査と比較して腫瘍の再発モニタリングに有用であるかを検討する。			
医療技術名	抗血管内皮増殖因子療法中における滲出型加齢黄斑変性眼の視力予後および黄斑萎縮の発症を予測する新規バイオマーカーの開発	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 滲出型AMD眼から抗VEGF療法前後において、前房水を採取して前房水中に含まれる炎症性サイトカイン濃度をモニタリングすることで抗VEGF療法中の滲出型AMD眼の視力予後及び悪化及び中心視野障害に関わる黄斑萎縮の発症を予測しうる新規バイオマーカーを開発する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	225

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	網膜色素変性症	8
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性門脈圧亢進症	3
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	原発性胆汁性胆管炎	17
4	進行性核上性麻痺	9	59	原発性硬化性胆管炎	2
5	パーキンソン病	137	60	自己免疫性肝炎	36
6	大脳皮質基底核変性症	4	61	クローン病	141
7	シャルコー・マリー・トゥース病	2	62	潰瘍性大腸炎	337
8	重症筋無力症	78	63	好酸球性消化管疾患	3
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	73	64	若年性特発性関節炎	7
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	16	65	先天性ミオパチー	2
11	封入体筋炎	2	66	筋ジストロフィー	7
12	多系統萎縮症	8	67	アトピー性脊髄炎	1
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	68	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1
14	副腎白質ジストロフィー	1	69	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
15	ミトコンドリア病	3	70	ドラベ症候群	3
16	もやもや病	12	71	ミオクロニー欠神てんかん	1
17	全身性アミロイドーシス	9	72	レノックス・ガストー症候群	1
18	神経線維腫症	3	73	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1
19	天疱瘡	20	74	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
20	表皮水疱症	1	75	結節性硬化症	1
21	膿疱性乾癬(汎発型)	1	76	家族性良性慢性天疱瘡	1
22	中毒性表皮壊死症	1	77	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19
23	高安動脈炎	1	78	特発性後天性全身性無汗症	3
24	巨細胞性動脈炎	9	79	マルファン症候群	2
25	結節性多発動脈炎	7	80	ウィルソン病	1
26	顕微鏡的多発血管炎	17	81	ブラダー・ウィリ症候群	1
27	多発血管炎性肉芽腫症	13	82	ヌーナン症候群	1
28	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	83	左心低形成症候群	1
29	悪性関節リウマチ	3	84	三尖弁閉鎖症	2
30	パージャール病	3	85	ファロー四徴症	3
31	全身性エリテマトーデス	129	86	両大血管右室起始症	2
32	皮膚筋炎／多発性筋炎	70	87	急速進行性糸球体腎炎	37
33	全身性強皮症	13	88	一次性ネフローゼ症候群	102
34	混合性結合組織病	19	89	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	5
35	シェーグレン症候群	62	90	オスラー病	3
36	成人スチル病	7	91	閉塞性細気管支炎	2
37	再発性多発軟骨炎	4	92	副甲状腺機能低下症	5
38	ベーチェット病	46	93	尿素サイクル異常症	3
39	特発性拡張型心筋症	6	94	強直性脊椎炎	2
40	肥大型心筋症	18	95	ファンコニ貧血	1
41	再生不良性貧血	33	96	IgG4関連疾患	15
42	自己免疫性溶血性貧血	3	97	黄斑ジストロフィー	1
43	特発性血小板減少性紫斑病	41	98	アッシュャー症候群	2
44	血栓性血小板減少性紫斑病	3	99	好酸球性副鼻腔炎	11
45	原発性免疫不全症候群	9	100	先天異常症候群	1
46	IgA腎症	20	101	特発性多中心性キャッスルマン病	1
47	多発性嚢胞腎	18	102		
48	黄色靱帯骨化症	4	103		
49	後縦靱帯骨化症	33	104		
50	特発性大腿骨頭壊死症	10	105		
51	クッシング病	1	106		
52	サルコイドーシス	64	107		
53	特発性間質性肺炎	1	108		
54	肺動脈性肺高血圧症	26	109		
55	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	101
合計患者数(人)	1935

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・初診料(歯科)の注1に掲げる基準	・救命救急入院料1
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料3
・歯科外来診療環境体制加算2	・小児入院医療管理料2
・特定機能病院入院基本料 一般 7対1入院基本料	・
・特定機能病院入院基本料 精神 13対1入院基本料	・
・超急性期脳卒中加算	・
・救急医療管理加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・データ提出加算	・
・入退院支援加算2 告示注7 入院時支援加算	・
・認知症ケア加算2	・
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・
・精神疾患診療体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・補聴器適合検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料イ	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん患者指導管理料ロ	・画像診断管理加算1
・がん患者指導管理料ハ	・CT撮影及びMRI撮影
・がん患者指導管理料ニ	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来緩和ケア管理料	・外来化学療法加算1
・婦人科特定疾患治療管理料	・無菌製剤処理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・外来放射線照射診療料	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・がん治療連携計画策定料	・がん患者リハビリテーション料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・透析液水質確保加算
・薬剤管理指導料	・センチネルリンパ節加算
・医療機器安全管理料1	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・医療機器安全管理料2	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・遺伝学的検査	・椎間板内酵素注入療法
・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体、腫瘍細胞を検体)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・網膜再建術
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・遺伝カウンセリング加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ヘッドアップティルト試験	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・輸血管理料Ⅱ
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・自己生体組織接着剤作成術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・放射線治療専任加算
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・外来放射線治療加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・高エネルギー放射線治療
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・1回線量増加加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・
・同種死体腎移植術	・
・生体腎移植術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
3次元空間でのシンギュラリティ細胞特定のための光音響イメージング	石原 美弥	医用工学	2,200,000	(補) 委	文科省 科 研 費
新しいゲノム個別化予防・医療に向けた日本発の痛風・高尿酸血症の分子遺伝疫学研究	松尾 洋孝	分子生体制御学	9,600,000	(補) 委	文科省 科 研 費
2型糖尿病におけるERK2による異所性脂肪沈着制御と心血管合併症の検討	足立 健	内科学	2,600,000	(補) 委	文科省 科 研 費
顕微注入を伴わないin situゲノム編集技術による遺伝子改変個体の簡便な作成	中村 伸吾	防衛医学研究センター 医療工学研究部門	4,200,000	(補) 委	文科省 科 研 費
Chediak東症候群原因遺伝子LYST変異による神経変性発症機序の解明	野々山 恵章	小児科学	5,900,000	(補) 委	文科省 科 研 費
ミトコンドリア機能と品質管理機構から捉える重症病態の分子病態研究	宮崎 裕美	防衛医学研究センター 外傷研究部門	3,500,000	(補) 委	文科省 科 研 費
細菌の呼吸活性と宿主の貪食細胞機能強化に着目した多角的な重症感染症治療戦略	木下 学	免疫・微生物学	4,900,000	(補) 委	文科省 科 研 費
新規尿酸輸送体の遺伝的背景の違いが健康体質に与える影響の分子生理学的理解と制御	豊田 優	分子生体制御学	4,600,000	(補) 委	文科省 科 研 費
過栄養・肥満による臓器線維化の不顕性進展機構の解明と、疾患治療への応用	富田 謙吾	病院 内科	3,600,000	(補) 委	文科省 科 研 費
体内埋め込み型発光デバイスによる深部臓器がんへの新たな光線力学治療システム	守本 祐司	生理学	4,300,000	(補) 委	文科省 科 研 費
「眩しさ」を生み出す痛み成分の神経機構に関する研究	田代 晃正	生理学	700,000	(補) 委	文科省 科 研 費
ギラン・バレー症候群を中心とした免疫性神経疾患の新規タンパク抗原と病的意義の解明	小牟田 縁	防衛医学研究センター 生体情報・治療システム 研究部門	500,000	(補) 委	文科省 科 研 費
ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の作用増強による膀胱癌新規治療法の開発	佐藤 全伯	泌尿器科学	800,000	(補) 委	文科省 科 研 費
医療制度の制度発展過程に関する比較研究	金子 雅彦	進学課程(社会学)	500,000	(補) 委	文科省 科 研 費
照葉樹林帯の生活科学ーミヤママー山岳地域チン州における資源利用特性と植生の関係ー	朝比奈 はるか	救急部	500,000	(補) 委	文科省 科 研 費
臨床現場における人の共感特性と心理的ストレスに関する研究	長峯 正典	防衛医学研究センター 行動科学研究部門	800,000	(補) 委	文科省 科 研 費
核酸小分子リガンドを用いた電気化学的な遺伝子検出法の開発に関する研究	武井 史恵	進学課程(化学)	500,000	(補) 委	文科省 科 研 費
食品中乳化剤による腸炎誘発機序の解明ー炎症性腸疾患の治療へ向けてー	栗原 千枝	内科学	400,000	(補) 委	文科省 科 研 費
LPSプレコンディショニングによるマラリア重篤化抑制手法の確立	小野 岳史	国際感染症学	1,100,000	(補) 委	文科省 科 研 費
血小板代替リボソームによって炎症を制御して外傷性凝固障害を治療する	萩沢 康介	生理学	1,100,000	(補) 委	文科省 科 研 費
iPS細胞を用いた、ミトコンドリア分裂障害によるLeigh症候群の機序の解明	松本 浩	小児科学	800,000	(補) 委	文科省 科 研 費
プロバイオティクス摂取が腸管免疫と腸内細菌のトランスジェネレーションへ及ぼす影響	岡田 義清	内科学	800,000	(補) 委	文科省 科 研 費
アトピー性皮膚炎・痒疹の痒み発生機序の解明:IL-31産生マクロファージの役割	端本 宇志	病院 皮膚科	700,000	(補) 委	文科省 科 研 費
免疫反応と皮膚生理機能異常からみた痒疹の病態解析と治療に関する研究	佐藤 貴浩	皮膚科学	700,000	(補) 委	文科省 科 研 費
腰痛症の原因となる器質的疾患の病態解明とそれに基づく新たな治療戦略の確立	千葉 一裕	整形外科学	500,000	(補) 委	文科省 科 研 費

筋恒常性維持と筋変性のメカニズム解明	堀内 圭輔	整形外科学	900,000	(補委)	文科省 科研費
腎細胞癌の早期診断及び病勢を反映するバイオマーカーの同定と臨床応用に向けた研究	伊藤 敬一	泌尿器科学	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
ゲノム編集技術を用いた1,2-ジクロロプロパンの毒性機序の解明	吉岡 範幸	衛生学公衆衛生学	800,000	(補委)	文科省 科研費
フッ素曝露の神経系への影響:感受性を考慮した検討	角田 正史	衛生学公衆衛生学	800,000	(補委)	文科省 科研費
軽症脳卒中患者の再発予防へのセルフマネジメント自己評価尺度の開発および介入	内田 香里	看護学科	700,000	(補委)	文科省 科研費
一般病院がん患者に対する看護師が行うディグニティセラーの効果と紹介基準の検討	伴 佳子	看護学科	800,000	(補委)	文科省 科研費
職域におけるヘルズリテラシーを活用した生活習慣病予防教育プログラムの開発	上野 美紀	看護学科	600,000	(補委)	文科省 科研費
心不全の緩和ケアに関する研修プログラムの効果検証	松井 美帆	看護学科	900,000	(補委)	文科省 科研費
経口的喉頭機能温存手術後の音声・嚥下機能評価と機能障害予防への展開	谷合 信一	耳鼻咽喉科学	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
ハイパースペクトル光音響顕微鏡の開発及び皮膚がん広がり診断への応用	平沢 壮	医用工学	700,000	(補委)	文科省 科研費
脳内オピオイド産生の計測制御による過食のメカニズムの解明	太田 宏之	薬理学	800,000	(補委)	文科省 科研費
新規LXR刺激物質を用いた肝臓免疫細胞の機能解析	中島 弘幸	免疫・微生物学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
高分解能24時間心電図による心臓突然死予測スコアリングモデルの樹立	橋本 賢一	総合臨床部	800,000	(補委)	文科省 科研費
リポ多糖の前投与がマイクログリアを介した抑うつ症状の発症を抑制するメカニズムの研究	古賀 農人	精神科学	1,200,000	(補委)	文科省 科研費
良性成人型家族性ミオクローヌステんかんと慢性精神病の併発に関する研究	吉野 相英	精神科学	600,000	(補委)	文科省 科研費
低HDL血症に対する冠動脈疾患克服の新戦略: 家族性高コレステロール血症での検討	池脇 克則	内科学	1,200,000	(補委)	文科省 科研費
心不全発症進展における抗心筋自己抗体の関与とその発生メカニズム	長友 祐司	内科学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
糖尿病性血管内皮機能障害におけるパルミチン酸のO-GlcNAcを介した機序の解明	眞崎 暢之	病院 内科	1,200,000	(補委)	文科省 科研費
骨髄線維症の線維化解除メカニズムの解析	大澤 有紀子	内科学	1,300,000	(補委)	文科省 科研費
網羅的メチル化解析で同定された頭蓋内高悪性度胚細胞腫治療標的候補分子群の機能解析	富山 新太	病院 脳神経外科	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
経尿道的治療による難治性尿道狭窄症の治療をめざした革新的な尿道カテーテルの開発	堀口 明男	病院 泌尿器科	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
糖尿病網膜症におけるIL-17Aを介した炎症性VEGF産生のメカニズム解析	竹内 大	眼科学	200,000	(補委)	文科省 科研費
経皮吸収による健康障害防止のための化学防護手袋の適正使用指針構築	岩澤 聡子	衛生学公衆衛生学	1,400,000	(補委)	文科省 科研費
閉経前後における女性の血清尿酸値と遺伝子多型の関連	中島 宏	衛生学公衆衛生学	900,000	(補委)	文科省 科研費
自死家族の子供の人格形成に向けた新たな親子関係の構築に資する支援策の開発	野村 佳代	看護学科	800,000	(補委)	文科省 科研費
脂肪炎症とディスバイオシスの相互修飾による認知症発症機構解明と治療への応用	石塚 俊晶	薬理学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
局所陰圧閉鎖療法の科学的根拠に基づいた適正治療指針の策定と適応拡大	東 隆一	病院 形成外科	600,000	(補委)	文科省 科研費
独自の金属ナノ粒子合成技術を利用した医療従事者用の機能性材料の創製	中村 伸吾	防衛医学研究センター 医療工学研究部門	1,400,000	(補委)	文科省 科研費

早期発見が困難な癌の二次予防に向けた新規高感度遺伝子発現解析による診断技術の開発	四ノ宮 成祥	分子生体制御学	2,100,000	(補委)	文科省 科研費
脈管系および付属器を有する革新的皮膚代用品の創生	宮崎 裕美	防衛医学研究センター 外傷研究部門	1,400,000	(補委)	文科省 科研費
Mesothelinをターゲットとした抗体治療の臨床応用	永生 高広	外科学	800,000	(補委)	文科省 科研費
がん罹患後に離職した就労世代のがん患者に対する支援プログラムの開発	小林 成光	看護学科	900,000	(補委)	文科省 科研費
細胞自律的な軸索投射メカニズムの解明	東 誉人	解剖学	600,000	(補委)	文科省 科研費
プロスタグランジンE3による慢性炎症の制御機構の解明	石渡 遼	生理学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
レーザーによる近赤外光照射の免疫賦活化効果を用いた舌下粘膜ワクチンへの応用	君塚 善文	内科学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
精巣胚細胞腫瘍、特に非セミノーマの腫瘍進展に関わる分子遺伝学的因子の網羅的検索	宮居 弘輔	臨床検査医学	100,000	(補委)	文科省 科研費
iPS細胞を用いたDNM1-L遺伝子変異による心筋症発症機構の解明と治療への応用	大澤 麻登里	小児科学	800,000	(補委)	文科省 科研費
EGb761の創傷軽減・治癒促進効果についての検討	會沢 哲士	病院 形成外科	500,000	(補委)	文科省 科研費
一般病棟看護師を対象とした多量飲酒者へのケア実践ガイドの作成と有用性の検証	内野 小百合	看護学科	700,000	(補委)	文科省 科研費
終末期がん患者の家族に焦点を当てた退院支援プログラムの開発	大園 康文	看護学科	200,000	(補委)	文科省 科研費
依存症予備軍に対する保健師向け行動変容面接技術教育プログラム開発と評価	瀬在 泉	看護学科	900,000	(補委)	文科省 科研費
科学技術と実践情報を統合した終末期患者の予後予測指標の開発	石川 孝子	看護学科	1,400,000	(補委)	文科省 科研費
人工肛門萎縮腸管へのシンバイオティクス投与による腸管免疫賦活に関する臨床応用	岡本 耕一	外科学	900,000	(補委)	文科省 科研費
MIRAGE症候群の免疫異常の病態解明と新規治療法開発への応用	關中 悠仁	小児科学	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
左室駆出率が保たれた心不全の進展過程に対する新規評価法ならびに増悪因子の探索	安田 理紗子	病院 内科	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
肺血管内皮細胞指向性アデノ随伴ウイルスを利用した肺動脈性肺高血圧症の病態解明	白石 安永	防衛医学研究センター 特殊環境衛生研究部門	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
好酸球の多層オミクス解析に基づく炎症病態の予測システムの開発	宮田 純	病院 内科	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
浸潤性膵管癌のがん周囲微小環境-特に神経・退形成性変化-の役割の解明	岩崎 寿光	外科学	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
心臓血管外科術後出血の制御を目的とした血小板代替物投与の臨床応用	石田 治	病院 外科	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
難聴がうつ・認知機能に及ぼす影響と病態の解明 -中枢制御による新規治療法の開発-	栗岡 隆臣	耳鼻咽喉科学	1,300,000	(補委)	文科省 科研費
新しい光硬化性止血剤の開発と血管吻合部への適用	土屋 壮登	病院 形成外科	1,400,000	(補委)	文科省 科研費
組織的管理に活用可能な病院看護職の疲労セルフマネジメントのためのツール開発	星野 清香	看護学科	400,000	(補委)	文科省 科研費
急性期看護学で反転授業を活用した日本版チーム基盤型学習の系統的導入と効果検証	村田 洋章	看護学科	1,000,000	(補委)	文科省 科研費
PIP3関連分子異常による原発性免疫不全症の病態解明と新規治療法開発への応用	關中 佳奈子	小児科学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
次世代シーケンサー併用HiCEP法による腎癌の遺伝子発現とバイオマーカーの同定	辻田 裕二郎	泌尿器科学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費
分子遺伝学的解析による日本人に特徴的な尿酸関連疾患の個人差の同定と予防法の探索	中山 昌喜	分子生体制御学	1,100,000	(補委)	文科省 科研費

XR(仮想空間技術)を活用した虐待予防教育プログラムの開発	菊原 美緒	看護学科	500,000	補委	文科省 科研費
疾患iPS細胞を用いた多発性硬化症に対するドネペジルの有効性と作用機序の解明	今村 幸	生化学	1,200,000	補委	文科省 科研費
癌関連線維芽細胞で発現するADAM9を標的とした治療法構築と新規標的分子の探索	望月 早月	外科学	1,300,000	補委	文科省 科研費
光温熱効果を利用した超分子デバイスによる胃癌腹膜播種に対する新規治療法	高畑 りさ	外科学	1,000,000	補委	文科省 科研費
リンパ系腫瘍における骨髄線維化誘導機構の解析	木村 文彦	内科学	1,200,000	補委	文科省 科研費
発達期の脳における全身麻酔薬の神経毒性メカニズムの解明	佐藤 泰司	生化学	1,100,000	補委	文科省 科研費
広範囲脳梗塞に対する減圧開頭術後の再灌流障害に対する新規治療戦略の開発	竹内 誠	脳神経外科学	1,500,000	補委	文科省 科研費
耳鳴に対する分子遺伝学的解析を基盤とした新規薬物治療の開発	水足 邦雄	病院 耳鼻咽喉科	1,300,000	補委	文科省 科研費
喉頭機能回復を目指した反回神経障害への新規治療戦略の開発	荒木 幸仁	耳鼻咽喉科学	900,000	補委	文科省 科研費
術後看護シミュレーションのデブリーフィングにVRを用いた学習支援プログラムの開発	永井 菜穂子	看護学科	1,600,000	補委	文科省 科研費
働く女性のウィメンズヘルスリテラシー啓発のための教育プログラム開発	西岡 笑子	看護学科	1,200,000	補委	文科省 科研費
食塩過剰摂取による腸粘膜Naイオン輸送異常は食塩感受性高血圧発症に関与するか？	晝間 恵	生理学	1,300,000	補委	文科省 科研費
セルロース素材のボトムアップナノ化と高機能医用材料の創製	秦 裕樹	防衛医学研究センター 医療工学研究部門	900,000	補委	文科省 科研費
NF155抗体陽性CCPDにおける中枢神経病理の病態解明	本郷 悠	内科学	700,000	補委	文科省 科研費
親の精神的問題と周産期メンタルヘルスリテラシーが虐待に与える影響についての検討	高橋 知久	外科学	800,000	補委	文科省 科研費
ヒトの慢性疼痛に対する水素ガス吸入療法の開発	諸橋 徹	麻酔学	1,200,000	補委	文科省 科研費
全ゲノム解析と患者疫学情報による病原体伝播経路推定法の確立とその臨床応用	藤倉 雄二	病院 内科	1,300,000	補委	文科省 科研費
カテコールアミンと拘束性ストレスによる心臓内microRNA変動の分布	細谷 直	法医学	900,000	補委	文科省 科研費
COVID-19に対応する看護師の共感特性がワークエンゲージメントに与える影響	野口 宣人	看護学科	1,200,000	補委	文科省 科研費
腫瘍での光増感剤産生を指向した機能性分子の創成	山田 直生	生理学	1,200,000	補委	文科省 科研費
ニュージーランド人と日本人の比較による新規尿酸遺伝要因の探索・同定と分子機能解析	松尾 洋孝	分子生体制御学	2,900,000	補委	文科省 科研費

計 102件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	岡田陽介	血液内科	Multiple aortic thrombi in essential thrombocythaemia	British journal of haematology. 2021 Jun; 193:862	Others
2	小林真一	血液内科	Outcomes of third allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in relapsed/refractory acute leukemia after a second transplantation.	Bone marrow transplantation.2022 Jan; 57:43-50	Original Article
3	岡田陽介	血液内科	Primary cutaneous diffuse large B-cell lymphoma, leg type with MYC/BCL2/BCL6 overexpression	EJHaem 2022 Feb; 3:251	Others
4	Hisashi Sasaki, Jun Miyata, Irie Akiko, et al.	内科学講座 (感染症・呼吸器)	Case Report: Eosinophilic Bronchiolitis With Eosinophil Eosinophil ETosis in Mucus Plugs Successfully Treated With Benralizumab.	Frontiers in Pharmacology. 2022 January;12:826790	Case report
5	Tomoya Sano, Yoshifumi Kimizuka, Yuji Fujikura, et al.	内科学講座 (感染症・呼吸器)	COVID-19 in older adults: Retrospective cohort study in a tertiary hospital in Japan	Geriatr Gerontol Int. 2021 November;20:1044-49	Original Article
6	Chie Watanabe, Yoshifumi Kimizuka, Yuji Fujikura, et al.	内科学講座 (感染症・呼吸器)	Mixed Infection of Cytomegalovirus and Pulmonary Nocardiosis Caused by Nocardia elegans Diagnosed Using Nanopore Sequencing Technology: A Case Report	Intern Med. 2021 January;61:1613-17	Case report
7	Ryohei Suematsu, Jun Miyata, Tomoya Sano, et al.	内科学講座 (感染症・呼吸器)	Diffuse Alveolar Hemorrhage Associated with Dilated Cardiomyopathy and Sleep Apnea Syndrome	Intern Med. 2021 June;60:1911-14	Case report
8	Yohei Maki, Yoshifumi Kimizuka, Hisashi Sasaki, et al.	内科学講座 (感染症・呼吸器)	Lung adenocarcinoma with repetitive endotracheal/endobronchial metastasis 20 years after surgery: A case report	Thoracic Cancer.2021 January;12:133-36	Case report

9	Yohei Maki, Yoshifumi Kimizuka, Koji Marukami, et al.	内科学講座 (感染症・呼吸器)	Zosteriform skin metastasis caused by retrograde lymphatic migration of metastatic squamous cell lung carcinoma	BMC Pulm Med.2021 January;21:41	Case report
10	Ko Takamatsu,	膠原病・アレルギー内科	Acute Pancreatitis Coincided with Multiple Arteriolar Aneurysms in a Patient with Polyarteritis Nodosa.	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 Dec 8;rxab052.	Case report
11	Keita Kouzu, Hironori Tsujimoto, Kishi Yoji et al.	外科学講座	Bacterial Translocation in Gastrointestinal Cancers and Cancer Treatment	Biomedicines . 2022 Feb;10:380	Review
12	Hiromi Nagata, Hironori Tsujimoto, Hiroyuki Horiguchi et al.	外科学講座	Clinical Relevance of Tissue and Serum Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 Expression in Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma	J Surg Res . 2022 Jan;269:189-200	Original Article
13	Einama Takahiro, Yamagishi Yoji, Takahata Yasuhiro et al.	外科学講座	Co-expression of mesothelin and CA125/MUC16 is a prognostic factor for breast cancer, especially in luminal- type breast cancer patients	Biomark Res . 2021 Oct;9:78	Original Article
14	Masato Yamadera, Eiji Shinto, Ken Nagata et al.	外科学講座	Proposal for a tumor budding predictive score derived from endoscopic biopsy samples in colorectal cancer	Int J Clin Oncol . 2022 Apr;27:756-764	Original Article
15	Ken Nagata, Eiji Shinto, Takehiro Shiraishi et al.	外科学講座	Mesothelin Expression is Correlated with Chemoresistance in Stage IV Colorectal Cancer	Ann Surg Oncol . 2021 Dec;28:8579-8586.	Original Article
16	Youichi Miyata, Naoto Yonamine, Ibuki Fujinuma et al.	外科学講座	Impact of Lymph Node Metastases Around the Superior Mesenteric Artery on Postoperative Outcomes of Pancreatic Head Cancer	World J Surg . 2021 Dec;45:3668-3676.	Original Article
17	Keita Kouzu, Hironori Tsujimoto, Yusuke Ishibashi et al.	外科学講座	Preoperative Fall Risk Assessment Score as a Prognostic Factor in Esophageal Cancer Patients after Esophagectomy	J Clin Med . 2021 Dec;10:5966.	Original Article
18	Yusuke Ishibashi, Hironori Tsujimoto, Hidekazu Sugasawa et al.	外科学講座	How has the COVID-19 pandemic affected gastrointestinal surgery for malignancies and surgical infections?	Nagoya J Med Sci . 2021 Nov;83:715-725.	Original Article
19	Iwasaki Toshimitsu, Mayu Tashiro, Kishi Yoji et al.	外科学講座	Anaplastic Pancreatic Carcinoma Associated with Two Portal Vein Tumor Thrombi	J Gastrointest Surg . 2022 Mar;26:705-707	Original Article

20	Yujiro Itazak, Takahiro Einama, Fukumi Konno et al.	外科学講座	IgG4-related hepatic inflammatory pseudotumor mimicking cholangiolocellular carcinoma	Clin J Gastroenterol . 2021 Dec;14:1733-1739.	Case report
21	Keita Kouzu, Hironori Tsujimoto, Kishi Yoji et al.	外科学講座	Role of Microbial Infection-Induced Inflammation in the Development of Gastrointestinal Cancers	Medicines (Basel) . 2021 Aug;8:45	Original Article
22	Yasuhiro Takihata, Satoko Kawauchi, Sho Ogata et al.	外科学講座	In vivo diffuse reflectance spectroscopic analysis of fatty liver with inflammation in mice	Surg Open Sci . 2021 Jul;6:21-28.	Original Article
23	Yusuke Ishibashi, Hironori Tsujimoto, Hidekazu Sugawara et al.	外科学講座	Prognostic value of platelet-related measures for overall survival in esophageal squamous cell carcinoma: A systematic	Crit Rev Oncol Hematol . 2021 Aug;164:103427.	Original Article
24	Yuki Sota, Takahiro Einama, Kazuki Kobayashi et al.	外科学講座	Recurrent cholangiocarcinoma with long-term survival by multimodal treatment: A case report	Mol Clin Oncol . 2021 Apr;14:72.	Case report
25	Hideki Ueno, Yoshiaki Kajiwara, Yoichi Ajioka et al.	外科学講座	Histopathological atlas of desmoplastic reaction characterization in colorectal cancer	Jpn J Clin Oncol . 2021 May;51:1004-1012	Others
26	Naoyuki Uehata, Keita Kouzu, Hironori Tsujimoto et al.	外科学講座	Long-term survival achieved by repeated administration of ramucirumab after drug holidays due to proteinuria in recurrent gastric cancer	Surg Case Rep . 2021 Apr;7:97.	Case report
27	Kazuya Kitamura	整形外科科学講座	Spontaneous Osseous Fusion after Remodeling Therapy for Chronic Atlantoaxial Rotatory Fixation and Recovery Mechanism of Rotatory Range of Motion of the Cervical Spine	Clin Med . 2022 Mar 9;11(6):1504	Original Article
28	Keisuke Horiuchi	整形外科科学講座	Hypercalcemia following discontinuation of denosumab therapy: A systematic review	Bone Rep . 2021 Nov 13;15:101148	Review
29	Kazuya Kitamura	整形外科科学講座	Which frailty scales for patients with adult spinal deformity are feasible and adequate? A systematic review	Spine J . 2022 Jul;22(7):1191-1204. doi: 10.1016/j.spinee.2022.01.017. Epub 2022 Feb 3.	Review
30	Kazuya Kitamura	整形外科科学講座	Remnant Tumor Margin as Predictive Factor for Its Growth After Incomplete Resection of Cervical Dumbbell-Shaped Schwannomas	Neurospine . 2022 Mar;19(1):32-40. doi: 10.14245/ns.2142698.349 . Epub 2022 Jan 30.	Original Article

31	E.Nakayama, T.kushibiki,Y .Mayumi	形成外科	Blue Laser Irradiation Decreases the ATP Level in Mouse Skin and Increases the Production of Superoxide Anion and Hypochlorous Acid in Mouse Fibroblasts	Biology(Basel).2022Feb;11 (2):301 (オンライン)	Original Article
32	R.Azuma,A.H origuchi,K.Oj ima	形成外科	Triangular Extension of Hinge Flaps: A Novel Technique to Resolve Stomal Stenosis and Prevent Restenosis in Staged Buccal Mucosal Urethroplasty	International journal of urology. 2021 May; 28: 806-811	Original Article
33	Tetsushi Aizawa, Takahiro Hirayama, Tomoharu kiyosaw, et al.	形成外科	First dorsal metacarpal artery perforator-based propeller flap: functional anatomy and clinical application in soft- tissue defects of the dorsal hand and digits.	Surg Radiol Anat. 2022 Feb;44(2):215-221	Original Article
34	Hisato Nagano, Yoshitaka Suematsu, Megumi Takuma et al.	形成外科	Enhanced cellular engraftment of adipose- derived mesenchymal stem cell spheroids by using nanosheets as scaffolds	Scientific reports. 2021 Jul (オンライン)	Original Article
35	Otsuka Y, Toyooka T, Takeuchi S et al.	脳神経外科	Superior Effectiveness of a Newly Developed Nonadherent Polyurethane-Coated Surgical Patty for Hemostasis.	Asian J Neurosurgery. 2021 Sep 14;16(3):507- 511	Original Article
36	Nishida S, Kawauchi S, Toyooka T et al.	脳神経外科	Local Application of Magnesium Sulfate Solution Suppressed Cortical Spreading Ischemia and Reduced Brain Damage in a Rat Subarachnoid Hemorrhage-Mimicking Model.	World Neurosurgery. 2021 Nov;155: e704-e715	Original Article
37	Takeuchi S, Kumagai K, Toyooka T et. al	脳神経外科	Intravenous Hydrogen Therapy with Intracisternal Magnesium Sulfate Infusion in Severe Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage.	Stroke. 2021 Jan;52(1):20-27.	Original Article
38	Kumagai K, Toyooka T, Otsuka Y et al.	脳神経外科	Usefulness and feasibility of repeated tail artery cannulations in the rat.	Blood Press Monit. 2021 Jun 1;26(3):230-233.	Original Article

39	Mitsui-Sekinaka K, Narumi S, Sekinaka Y, et al.	小児科	Clinical and immunological analyses of ten patients with MIRAGE syndrome.	J Clin Immunol. 2021, 41:709-711.	Case report
40	Hagiwara H, Matsumoto H, Uematsu K, et al.	小児科	Immunodeficiency in a patient with microcephalic osteodysplastic primordial dwarfism type I as compared to Roifman syndrome.	Brain Dev. 2021, 43:337-342.	Case report
41	Kato T, Tamura Y, Matsumoto H, et al.	小児科	Immunological abnormalities in patients with early-onset ataxia with ocular motor apraxia and hypoalbuminemia.	Clin Immunol. 2021, 229:108776.	Original Article
42	Hada Taira, Miyamoto Morikazu, Hiroki Ishibashi 他	産科婦人科学講座	Clear cell borderline tumor without fibromatous component: Pathological and literature review with report of two cases	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY 14(4):pp.75(1)-75(6):Apr.2021	Original Article
43	Kakimoto Soichiro, Miyamoto Morikazu, Einama Takahiro 他	産科婦人科学講座	Significance of mesothelin and CA125 expression in endometrial carcinoma: A retrospective analysis	Diagnostic Pathology 16(1):pp.28-28:Apr.2021	Original Article
44	Hiroki Ishibashi, Miyamoto Morikazu, Iwahashi Hideki 他	産科婦人科学講座	Criteria for placenta accreta spectrum in the International Federation of Gynaecology and Obstetrics classification, and topographic invasion area are associated with massive hemorrhage in	Acta Obstet Gynecol Scand 100(6):pp.1019-1025:Jun.2021	Original Article
45	Iwahashi Hideki, Miyamoto Morikazu, Shinya Minabe 他	産科婦人科学講座	Diagnostic efficacy of ascites cell block for ovarian clear-cell carcinoma	Diagnostic Cytopathology 49(6):pp.735-742:Jun.2021	Original Article
46	Takazaki Kazuki, Sasa Hidenori, Koyanagi Tsumika 他	産科婦人科学講座	外陰Paget病の細胞像：進行癌の1例	埼玉県臨床細胞学会誌 38・39: pp.109-113: Jun.2021	Case report
47	Iwahashi Hideki, Sasa Hidenori, Miyamoto Morikazu 他	産科婦人科学講座	子宮頸部悪性リンパ腫の2例	埼玉県臨床細胞学会誌 38・39: pp.120-125: Jun.2021	Case report
48	Doukyu Misaki, Minabe Shinya, Takahashi Hiromi 他	病院検査部細胞診	腹水細胞診において組織型の推定に苦慮した若年発生卵巣腫瘍の1例	埼玉県臨床細胞学会誌 38・39: pp.41-46:Jun.2021	Case report

49	Ishihasi Hiroki, Sasa Hidenori, Iwahashi Hideki 他	産科婦人科学講座	腹腔鏡観察下子宮内容除去術を施行した子宮卵管角部妊婦の1例	防衛医科大学校雑誌 46(2):pp.63-67:Jun.2021	Case report
50	Hada Taira, Miyamoto Morikazu, Hiroki Ishibashi 他	産科婦人科学講座	Prognostic similarity between ovarian mucinous carcinoma with expansile invasion and ovarian mucinous borderline tumor: A retrospective analysis	Medicine 100(32):pp.e26895-e26895:Aug.2021	Original Article
51	Yoshikawa Tomoyuki, Miyamoto Morikazu, Aoyama Tadashi 他	病院腫瘍化学療法部	Psoas muscle index at the fifth lumbar vertebra as a predictor of survival in epithelial ovarian cancers	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY 15(3):pp.177-177:Sep.2021	Original Article
52	Kaishi Yohei, Miyamoto Morikazu, Iwahashi Hideki 他	産科婦人科学講座	再発卵巣癌の化学療法中に心タンポナーデを発症した1例	埼玉産科婦人科学会雑誌 51(2):pp.105-111:Sep.2021	Case report
53	Miyamoto Morikazu, Iwahashi Hideki, Ishihashi Hiroki 他	産科婦人科学講座	腹腔鏡下付属器切除施行中に閉鎖孔ヘルニアと確定診断した1例	埼玉産科婦人科学会雑誌 51(2):pp.101-104:Sep.2021	Case report
54	Sato Kimiya, Miyamoto Morikazu, Takano Masashi 他	病態病理学講座	MicroRNA-21 expression in cancer cells is an independent biomarker of progression-free survival of endometrioid endometrial carcinoma	Vichows Arch 479(5):pp.883-891:Nov.2021	Original Article
55	Ishibashi Hiroki, Hagisawa Kohsuke, Kinoshita Manabu 他	産科婦人科学講座	Resuscitative efficacy of hemoglobin vesicles for severe postpartum hemorrhage in pregnant rabbits	Scientific Reports 11(1):pp.22367-22367:Nov.2021	Original Article
56	Sasa Hidenori, Matsumura Hiroko, Takasaki Kazuki 他	産科婦人科学講座	異形腺細胞 (AGC) の取り扱い	日本臨床細胞学会雑誌 60(6):pp.311-316:Sep.2021	Original Article
57	Kawai Marie, Suzuki Rie, Ito Tsubasa 他	産科婦人科学講座	術前に間質部妊娠が疑われ、腹腔鏡が診断・治療に有用であった異所性妊娠の3例	関東連合産科婦人科学会雑誌 58(4):pp.649-655:Sep.2021	Case report
58	Hada Taira, Miyamoto Morikazu, Ito Tsubasa 他	産科婦人科学講座	骨盤臓器脱に対して腹腔鏡下仙骨固定術を施行し、偶発的にserous tubal intraepithelial carcinoma (STIC) と診断された1例	関東連合産科婦人科学会雑誌 58(4):pp.553-558:Sep.2021	Case report
59	Otsuka Yuka, Yoshida Yusuke, Takano Masashi 他	産科婦人科学講座	ジカウイルス感染症流行地に入国する海上自衛官に対する感染症教育の検討	日本周産期・新生児医学会誌 37(3):pp.416-421:Des.2021	Original Article

60	Hada Taira, Miyamoto Morikazu, Hiroki Ishibashi 他	産科婦人科学講座	Comparison of clinical behavior between mucinous ovarian carcinoma with infiltrative and expansile invasion and high grade serous ovarian carcinoma: A retrospective analysis	Diagnostic Pathology 17(1):pp.12-12:Jan.2022	Original Article
61	Sakurai Y, Usui Y, Hattori T, et al.	眼科	Programmed Cell Death-1 Pathway Deficiency Enhances Autoimmunity Leading to Dacryoadenitis of Mice. Am J Pathol.	Am J Pathol. 191(6):1077. 2021	Original Article
62	Sato T, Kanda K, Kawamura Y, et al.	眼科	Sub internal limiting membrane hemorrhage followed by bilateral optic disc hemorrhage in Kikuchi-Fujimoto disease: a case report.	BMC Ophthalmol. 21:355. 2021	Case report
63	Takayama K, Someya H, Yokoyama H, et al.	眼科	Potential bias of preoperative intravitreal anti-VEGF injection for complications of proliferative diabetic retinopathy.	PLoS One. 16:e0258415. 2021	Original Article
64	Sato T, Takeuchi M, Karasawa Y, et al.	眼科	Profiles of Cytokines Secreted by ARPE-19 Cells Exposed to Light and Incubated with Anti-VEGF Antibody.	Biomedicines. 9(10): 1333. 2021	Original Article
65	Sato T, Enoki T, Karasawa Y, et al.	眼科	Inflammatory Factors of Macular Atrophy in Eyes With Neovascular Age-Related Macular Degeneration Treated With Aflibercept.	Front Immunol. 12:738521. 2021	Original Article
66	Iwai S, Takayama K, Sora D, et al.	眼科	A Case of Acute Retinal Necrosis Associated with Reactivation of Varicella Zoster Virus after COVID-19 Vaccination.	Ocul Immunol Inflamm. 1-3. 2021	Case report
67	Karasawa Y, Shinomiya N, Takeuchi M, et al.	眼科学講座	Growth factor dependence of the proliferation and survival of cultured lacrimal gland epithelial cells isolated from late-embryonic mice.	Dev Growth Differ 64(3):138-149. 2022	Original Article
68	Someya H, Ito M, Nishio Y, et al.	眼科学講座	Osteopontin-induced vascular hyperpermeability through tight junction disruption in diabetic retina.	Exp Eye Res 220:109094. 2022	Original Article
69	Kurioka Takaomi, Hajime Sano, Shogo Furuki, Yamashita Taku	耳鼻咽喉科	Iron deficiency is associated with poor prognosis in idiopathic sudden sensorineural hearing loss.	The Journal of Laryngology & Otology. 135(6)p.508-512. 2021年6月	Original Article

70	Eiko Kimura, Kunio Mizutari, Takaomi Kurioka, Satoko Kawauchi, Yasushi Satoh, Shunichi Sato, Akihiro Shiotani	耳鼻咽喉科	Effect of shock wave power spectrum on the inner ear pathophysiology in blast-induced hearing loss.	Scientific reports.11(1)2021.オンライン	Original Article
71	Kurioka, Takaomi, Sachiyo Mogi, and Taku Yamashita.	耳鼻咽喉科	Decreasing auditory input induces neurogenesis impairment in the hippocampus.	Scientific reports 11.1 (2021): 1-11.オンライン	Original Article
72	Kurioka, Takaomi, et al.	耳鼻咽喉科	Activity-dependent neurodegeneration and neuroplasticity of auditory neurons following conductive hearing loss in adult mice.	Cellular and molecular neurobiology 41.1 (2021): 31-42.	Original Article
73	Kurioka, Takaomi, et al.	耳鼻咽喉科	Speech discrimination impairment of the worse-hearing ear in asymmetric hearing loss.	International Journal of Audiology 60.1 (2021): 54-59.	Original Article
74	Koji Araki and Akihiro Shiotani.	耳鼻咽喉科	Transoral Videolaryngoscopic Surgery (TOVS)	Pharynx - Diagnosis and Treatment. IntechOpen. 2021 April (オンライン)	Original Article
75	Koji Araki, Kosuke Uno, Masayuki Tomifuji, Saki Takihata, Akihiro Shiotani.	耳鼻咽喉科	[How I Do It] Transoral videolaryngoscopic vocal fold medialization technique with calcium phosphate cement.	Laryngoscope 2021 Nov 11 (オンライン)	Original Article
76	Shinchi M, Horiguchi A, Ojima K, Hirano Y, Takahashi E, Kimura F, Ito K.	泌尿器科	Deep lateral transurethral incision for vesicourethral anastomotic stenosis after radical prostatectomy.	Int J Urol. 2021 Nov;28(11):1120-1126.	Original Article
77	Tachi K, Hirasawa T, Okawa S, Horiguchi A, Ito K, Ishihara M.	泌尿器科	Chromatic-aberration-free multispectral optical-resolution photoacoustic microscopy using reflective optics and a supercontinuum light source.	Appl Opt. 2021 Nov 1;60(31):9651-9658.	Original Article
78	Tabei T, Horiguchi A, Ojima K, Shinchi M, Kobayashi K, Ito K, Azuma R.	泌尿器科	Efficacy of re-do urethroplasty for post-traumatic urethral stricture: An analysis of the anatomical and functional outcomes.	Int J Urol. 2021 Jul;28(7):742-747.	Original Article

79	Horiguchi A, Ojima K, Shinchi M, Hirano Y, Hamamoto K, Ito K, Asano T, Takahashi E, Kimura F, Azuma R.	泌尿器科	Single-surgeon experience of excision and primary anastomosis for bulbar urethral stricture: analysis of surgical and patient-reported outcomes.	World J Urol. 2021 Aug;39(8):3063-3069.	Original Article
80	Arai Y, Kitamura Y, Miyai K, Hatanaka M, Hashimoto H, Horiguchi A, Ito K.	泌尿器科	Long-term disease control of metastatic type 2 papillary renal cell carcinoma using local treatment and molecular targeted therapy: A case report.	Mol Clin Oncol. 2021 Apr;14(4):71.	Case report
81	Kuroda K, Tasaki S, Asakuma J, Horiguchi A, Ito K.	泌尿器科	Preoperative risk stratification using plasma fibrinogen levels can predict lymphovascular invasion and poor prognosis in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma.	Mol Clin Oncol. 2021 May;14(5):102.	Original Article
82	Ojima K, Kushibiki T, Mayumi Y, Miyai K, Shinchi M, Hirano Y, Azuma R, Ito K, Ishihara M, Horiguchi A.	泌尿器科	Ability of photocurable gelatin to prevent stricture recurrence after urethral dilation in rabbits.	Int J Urol. 2022 Feb;29(2):170-175.	Original Article
83	Sawazaki H, Ito K, Asano T, Kuroda K, Horiguchi A, Tsuda H, Asano T.	泌尿器科	Multidrug Resistance Protein 1 and Annexin A2 as Predictive Factors for Intravesical Recurrence of Bladder Cancer after the Initial Transurethral Resection and Immediate Single Intravesical Instillation of Adriamycin.	Asian Pac J Cancer Prev. 2021 May 1;22(5):1459-1466.	Original Article
84	Hamamoto K, Horiguchi A, Shinchi M, Ojima K, Hirano Y, Takahashi E, Kimura F, Ito K, Azuma R.	泌尿器科	Impact of urethroplasty on overactive bladder symptoms in patients with anterior urethral strictures.	Int J Urol. 2022 Jan;29(1):50-56.	Original Article

85	Horiguchi A, Edo H, Shinchi M, Ojima K, Hirano Y, Ito K, Azuma R, Shinmoto H.	泌尿器科	Membranous urethral length on magnetic resonance imaging as a novel predictor of urinary continence after delayed anastomotic urethroplasty for pelvic fracture urethral injury.	World J Urol. 2022 Jan;40(1):147-153.	Original Article
86	Horiguchi A, Shinchi M, Ojima K, Hirano Y, Ito K, Azuma R.	泌尿器科	Surgical and Patient-Reported Outcomes of Delayed Anastomotic Urethroplasty for Male Pelvic Fracture Urethral Injury at a Japanese Referral Center.	J Clin Med. 2022 Feb 24;11(5):1225.	Original Article
87	Horiguchi A.	泌尿器科	Editorial Comment to Safety and mid-term surgical results of anterior urethroplasty with the tissue-engineered oral mucosa graft MukoCell® : A single-center experience.	Int J Urol. 2021 Sep;28(9):943.	Others
88	Horiguchi A.	泌尿器科	Editorial Comment to Ventral onlay buccal mucosa graft urethroplasty for female urethral stricture.	Int J Urol. 2021 May;28(5):543-544.	Others
89	Yasumasa Sekine, Daizoh Saitoh, Yuya Yoshimura, et al.	救急部	Efficacy of Body Armor in Protection Against Blast Injuries Using a Swine Model in a Confined Space with a Blast Tube	Ann Biomed Eng. 2021 Oct;49(10):2944-2956.	Original Article
90	Yasuhiro Hitomi, Nobuyuki Masaki, Yuki Ishinoda, et al.	循環器内科 集中治療部	Effectiveness of pulsatility index of carotid Doppler ultrasonography to predict cardiovascular events	Journal of Medical Ultrasonics, 2022 Jan;49(1):95-103.doi: 10.1007/s10396-021-01164-5.	Original Article
91	Amako M, Tsuda Y, Chiba K.	Department of Physical Medicine and Rehabilitation	Comparison of reliability, validity and responsiveness of the Japanese Orthopaedic Association Shoulder 36 Ver. 1.3 among different diagnoses of shoulder lesions.	J Orthop Sci. 2021 May	Original Article
92	Soga S, Koyama T, Mikoshi A, et al.	放射線医学講座	MR Imaging of Hair and Scalp for the Evaluation of Androgenetic Alopecia.	Magn Reson Med Sci. 2021 Jun 1;20(2):160-165.	Original Article
93	Soga S, Onishi F, Jinzaki M, et al.	放射線医学講座	Analysis of collateral lymphatic circulation in patients with lower limb lymphedema using magnetic resonance lymphangiography	J Vasc Surg Venous Lymphat Disord. 2021 Mar;9(2):471-481.e1.	Original Article

94	Hamabe F, Terayama T, Mikoshi A, et al.	放射線医学講座	Usefulness of computed tomography for hospitalized adult patients with fever to investigate cause of fever: single-center, retrospective cohort study	Jpn J Radiol. 2021 Aug;39(8):802-810.	Original Article
95	Soga S, Onishi F, Mikoshi A, et al.	放射線医学講座	Lower limb lymphedema staging based on magnetic resonance lymphangiography	J Vasc Surg Venous Lymphat Disord. 2022 Mar;10(2):445-453	Original Article
96	Mikoshi A, Miyai K, Hamabe F, et al.	放射線医学講座	MRI-detectability and histological factors of prostate cancer including intraductal carcinoma and cribriform pattern	Prostate. 2022 Mar;82(4):452-463.	Original Article

計96件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yusuke Matsuhashi	整形外科科学講座	Abrogation of LBX1 in skeletal muscle results in hypoplastic limbs and progressive kyphosis in mice	J Orthop Res . 2022 Jul 20	Original Article
2	Hajime Rikitake	整形外科科学講座	Risk assessment of femoral pathological fracture in prostate cancer patients by computed tomography analysis	J Bone Miner Metab . 2022 Jul;40(4):704-711.	Original Article
3	Eiko Taguchi	整形外科科学講座	ErbB1 induces tumor vascular remodeling through intussusceptive angiogenesis in a sarcoma xenograft model	Biochem Biophys Res Commun . 2021 Sep 17;570:89-95.	Original Article
4	Masahiro Inoue	整形外科科学講座	Trabectedin suppresses osteosarcoma pulmonary metastasis in a mouse tumor xenograft model	J Orthop Res . 2022 Apr;40(4):945-953. doi: 10.1002/jor.25105. Epub 2021 Jun 9.	Original Article
5	Fuji T, Teranishi K, Yatomi K et al.	脳神経外科	Long-term Follow-up Results after Flow Diverter Therapy Using the Pipeline Embolization Device for Large or Giant Unruptured Internal Carotid Artery Aneurysms: Single- center Retrospective Analysis in the Japanese Population.	Neurol Med Chir (Tokyo)	Case report

計5件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 申請手続、委員会審査及び分科会審査手続、審査結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反の審議をするための委員会（委員の任期、決議方法）、申請手続、判定結果の通知要領及び守秘義務等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 0 回 事前確認によって明らかに利益相反が認められないと判定されたため

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回以上
・ 研修の主な内容 日本学術振興会「研究倫理eラーニング」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	73人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	33年	
穂刈 量太	内科	教授	31年	
川名 明彦	内科	教授	38年	
木村 文彦	内科	教授	38年	
池脇 克則	内科	教授	38年	
上野 秀樹	外科	教授	32年	
田口 眞一	外科	教授	38年	
吉野 相英	精神科	教授	38年	
今井 耕輔	小児科	教授	25年	
千葉 一裕	整形外科	教授	39年	
和田 孝次郎	脳神経外科	教授	35年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	37年	
伊藤 敬一	泌尿器科	教授	30年	
高野 政志	産科婦人科	教授	30年	
竹内 大	眼科	教授	33年	
荒木 幸仁	耳鼻咽喉科	教授	25年	
新本 弘	放射線科	教授	38年	
池田 健彦	麻酔科	教授	33年	
斎藤 大蔵	救急部	教授	39年	
東 隆一	形成外科	教授	26年	
松熊 晋	検査部	教授	36年	
田中 祐司	総合臨床部	教授	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 塩谷 彰浩
管理担当者氏名	運営企画課長 長尾 昌幸、運営支援課長 河邊 和広、 材料部長 伊藤 敬一、医療情報部長 岸 庸二、薬剤部長 小杉 隆祥、 医療安全推進室長 高畑 りさ、感染対策室長 藤倉 雄二

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	運営企画課
		各科診療日誌	医療情報部
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	運営支援課
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	運営支援課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	運営支援課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
			カルテ等の病歴資料は、医療情報部で一括管理している。外来カルテは診療科毎、入院カルテは入院期間毎に作成され、電算機に登録されており、保存期間は10年である。医療記録利用規則により院外への貸し出しは禁止している。
			文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
			文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
	第一号から第三号までに掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医療機器安全管理責任者の配置状況	材料部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況		
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	/
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	運営支援課、医療安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
管理者が有する権限に関する状況	運営企画課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 塩谷 彰浩
閲覧担当者氏名	各診療科部長、運営企画課長、運営支援課長、材料部長、薬剤部長
閲覧の求めに応じる場所	・病院第3会議室
閲覧の手続の概要 閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理システムの構築</p> <p>(2) 医療従事者の研鑽</p> <p>(3) インシデント・アクシデントレポートの推進</p> <p>(4) 安全管理組織の充実</p> <p>(5) 職員教育・研修の充実</p> <p>(6) 医療事故発生時の対応方針</p> <p>(7) 患者相談窓口の設置</p> <p>(8) 高難度新規医療技術等に関する事項</p> <p>(9) 未承認新規医薬品等に関する事項</p> <p>(10) 医療安全管理マニュアルの改訂</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関すること</p> <p>(2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関すること</p> <p>(3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関すること</p> <p>(4) 医療事故発生時の対応要領に関すること</p> <p>(5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年33回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <p>(1) 新着任者、中途採用者に対する当院の医療安全管理体制についてのオリエンテーション (全職種) 33回/年</p> <p>(2) 新入職者 (看護師) に対するオリエンテーション 8回/年</p> <p>(3) 産児休業後復帰者に対するオリエンテーション 8回/年</p> <p>(4) 当院におけるリスクマネジメントについて (初任実務研修医、専門研修医、研究科) 計4回/年</p> <p>(5) 看護管理者のための安全管理教育 1回/年</p> <p>(6) 看護部研修生に対するオリエンテーション 1回/年</p> <p>(7) KYT、インシデントレポート入力講習 1回/年</p> <p>(8) 看護学生に対する医療安全管理体制についての卒前教育 1回/年</p> <p>(9) 全職員対象医療安全・感染対策講習 2回/年</p> <p>(10) コメディカル対象のBLS講習会 1回/年</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内全死亡例の報告および死亡例カンファレンス実施の義務化</p> <p>(2) オカレンス (合併症等) 事例に係わる報告の義務化</p> <p>(3) 院内における暴言・暴力に係わる報告制度</p> <p>(4) 安全対策プロジェクトチームにおけるインシデント事例の再発防止策の検討及び検証のための院内ラウンドの実施</p> <p>(5) 上記1)～4)の安全管理委員会、部長会での情報の共有と周知の実施</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： (1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： (1) 感染対策研修の実施 (2) 周術期抗菌薬適正使用への取り組み (3) 院外講師を招聘し、医療関連感染対策講習会を開催 (4) 採用時オリエンテーション (5) 手指衛生と個人防護具着脱について部署別研修 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌やインフルエンザ等に関する職員教育の実施 (3) ATP拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施 (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制を導入 (7) 携帯用手指衛生剤の導入 (8) 抗菌薬使用状況の把握、抗菌薬適正使用の推進 (9) 血液培養サーベイランスの実施 (10) 手術部位感染（SSI）サーベイランスの実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護職員初任者研修：薬剤の取り扱い（2回） (2) 研修医オリエンテーション（2回）：オーダーリングシステム教育～医療事故を起こさないために～ (3) 精神科病棟における薬剤師の役割～精神科用剤の処方について～ (5) 専門研修医師オリエンテーション：オーダーリングシステム教育～医療事故を起こさないために～ (6) 医薬品管理の留意点　－抗菌薬を中心として－ (7) 麻薬の管理（4回） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成　（○有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医薬品の選定 (2) 医薬品管理 (3) 調剤 (4) 薬剤管理指導業務 (5) 医薬品情報 (6) 地域薬剤師会との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（○有・無） <p>【収集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集 ② 医薬品安全対策情報（DSU）からの情報収集 ③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集　等 <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース ② 院内会議報告 <p>【その他の改善のための方策の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① オーダリングおよび薬剤部門システムを利用した薬用量チェックの設定 ② 薬剤部薬品棚の表示および調剤手順の見直し ③ 採用医薬品の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 未承認新規医薬品等評価委員会で28件承認（適応外25件、禁忌使用2件、院内製剤1件） 例）慢性心不全及び大動脈弁狭窄症を合併したタクロリムス錠投与中の関節リウマチ患者におけるスピロラクトン注の併用 局所麻酔中毒患者における20%イントラリポス輸液の投与　等 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年70回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 新着任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理 (2) 使用者に対する機器操作と安全管理 (3) 機器導入時の操作法と安全管理 (4) 使用現場巡回安全管理指導 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部で分担又は部外委託で実施 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 使用事例なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。 また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理部門の管理を行うとともに、1回/週管理者に対して医療安全管理部門とともに安全に関する報告を実施している。また、安全管理委員会委員長として、委員会を開催し、各責任者からの報告を受け指導を行うとともに病院部長会において、委員会の報告を実施している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は医薬品情報室を活用し、製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報(DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構等のHPから情報の収集と整理の報告を受ける。またDIニュース等を毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示し、院内周知を図る。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。また、医療情報提供会社と契約し、毎日医薬品関連ニュースが配布、配信され、それをもとに情報確認して医療従事者へ情報提供する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は未承認等医薬品の取り扱いに関して事務局を治験管理室に設置して薬剤部各部署および診療科からの適応外・禁忌に使用する情報を収集し報告を受ける。未承認等医薬品の使用について審議が必要となった場合は、未承認医薬品等評価委員会委員長に報告し、委員会を開催し使用の適否を審議する。また承認された事例は薬事委員会、安全管理委員会へ報告、医療端末掲示板に掲示し院内周知を図るとともに承認後の臨床使用成績についても情報を収集する。また必要に応じ手順の見直しを行っている</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>IC・診療録管理責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、ICについて規定された事項につき監査を実施、適宜不足事項に関する指導を実施している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： IC・診療録記録責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、各々の規定された項目につき監査を実施、監査状況に応じて指導を行っている。 また、初任実務研修医に対しては、新着任者教育の際に診療録記載マニュアルを用いて教育を実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（２）名 うち医師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>（１）事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 （２）患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 （３）事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 （４）医療安全に係る連絡調整に関すること。 （５）医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認 （６）医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。 （７）医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。 （８）医療安全文化の醸成に関すること。 （９）前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（４件）、及び許可件数（４件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>（１）高難度新規医療技術の提供の申し出の受領 （２）高難度新規医療技術評価委員会の開催 （３）高難度新規医療技術承認後の実施事例のモニタリング</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（30件）、及び許可件数（28件） ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> （1）未承認新規医薬品等の提供の申し出の受領 （2）未承認新規医薬品等評価委員会の開催 （3）未承認新規医薬品等評価委員会における審議結果報告、記録の作成・保管 （4）未承認新規医薬品等評価委員会の実施事例のモニタリング ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年321件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年18件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p style="margin-left: 20px;">安全管理委員会において全死亡症例の報告を実施。全死亡例における死亡例カンファレンス実施状況の各診療科別の報告、病理解剖実施率、A i実施率について報告。全死亡症例の概要についても報告を行い、安全推進室にて検討を実施した事例について報告を行い、必要に応じて審議を行っている。</p>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：東京医科歯科大学病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：横浜市立大学）・無） ・技術的助言の実施状況 <p style="margin-left: 20px;">コロナ禍により、調査票による確認のみを実施</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p style="margin-left: 20px;">事務部運営支援課に「患者相談窓口」を設置</p>

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全・感染対策講習会を2回／年実施。

第1回目は、埼玉県における緊急事態措置に基づく協力要請等に伴い、全職員がWEB講習と学習履歴により全職員の受講を確認。

第2回目は、埼玉県におけるまん延防止等重点措置等に基づく要請に伴い非常事態宣言下により全職員WEB講習と学習履歴により全職員の受講を確認。

【令和3年度実績】

第1回 令和3年9月29日 第2回 令和4年1月26日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構開催 2021年度特定機能病院管理者研修受講

- ・管理者 (2021/11/2 東京)
- ・医療安全管理責任者 (2021/12/8 東京)
- ・医薬品安全管理責任者 (2022/1/25 東京)
- ・医療機器安全管理責任者 (2021/12/8 東京)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和5年度(2023年5月)に病院機能評価を受審予定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 医師免許を有している者 2 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、人格が高潔で学識が優れ必要な医療安全管理業務に従事した経験、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を有すること 3 病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者 防衛医科大学学校病院又は同病院に準じる規模の病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有すること。 4 防衛医科大学学校の任務等を果たすために必要な資質・能力 防衛医科大学学校の任務や役割を理解し、職務遂行にあつては、同校の方針にしたがい、目標を達成しようとする強い意思とこれらを継続的かつ確実に推進する強力なリーダーシップを有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 防衛医科大学学校病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院の管理運営に関すること。 (2) 病院の医療安全管理及び訴訟に関すること。 (3) 臨床教育に関すること。 (4) 病院の手術及び医療材料に関すること。 (5) 病院における諸施策の評価に関すること。 ・審議の概要の従業者への周知状況 議事録の回覧 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 防衛医科大学校病院運営会に関する規則（平成17年防医大病院規則第2号）として規定し、防衛医科大学校法規類集に掲載するとともにインターネットでも閲覧可能としている ・外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無) 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
塩谷 彰浩	○	医師	病院長
木村 文彦		医師	副院長
辻本 広紀		医師	副院長
熊井 邦善		事務	事務部長
小杉 隆祥		薬剤師	薬剤部長
平 尚美		看護師	看護部長
穂刈 量太		医師	病院長補佐
伊藤 敬一		医師	病院長補佐
齋藤 大蔵		医師	病院長補佐
池田 健彦		医師	病院長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）として公表しており、インターネットで閲覧可能である。
- ・ 規程の主な内容
防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）第13条第5項において、「病院長は、学校長の命を受け、院務を掌理する。」と規定されており、病院に係る業務のすべてを統括し責任を有している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
防衛医科大学校病院においては、管理運営担当と医療安全担当の2名の副院長及び4名の院長補佐を任命し管理者たる病院長をサポートするとともに、病院事務部に運営企画課を設け、病院に係る各種企画業務等の補佐を実施している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
防衛医科大学校病院の副院長、院長補佐、各部長等に対し、可能な範囲で、人事院や防衛省本省で実施する管理者研修等を受講させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記の項目について監査を実施、状況に応じて実地での確認を行う</p> <p>(1) 医療安全部門の業務に関すること。</p> <p>(2) 全死亡例報告に関すること。</p> <p>(3) インシデント・アクシデントの発生の事実、発生前状況に関すること。</p> <p>(4) 医療安全管理に関すること。</p> <p>(5) インフォームド・コンセントの適切な実施状況に関すること。</p> <p>(6) 医療機器安全管理に関すること。</p> <p>(7) 高難度新規医療技術に関すること。</p> <p>(8) 診療録記載内容に関すること。</p> <p>(9) その他医療安全に関すること。</p> <p>監査委員は、上記の項目を口頭で説明を受け実地（医療等の現場）での確認を行う。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>防衛医科大学校病院ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
斉藤 祐次	所沢市薬剤師 会 顧問	○	医療に関する見 識を有する者	有・(無)	1
大館 千歳	国立障害者リハ ビテーションセンター 病院 看護部 長		医療に関する見 識を有する者	有・(無)	1
島戸 圭輔	二番町法律事 務所（弁護士）		法律に関する見 識を有する者	有・(無)	1
奈良 信和	自治体職員		医療を受ける者	有・(無)	2
根本 孝一	永仁会入間ハ ート病院		医療に関する見 識を有する者	有・(無)	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること。」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられている。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

防衛医科大学校病院ホームページ

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられていることから、別途会議体を設けることは要しない。 ・ 会議体の実施状況（ 年〇回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年〇回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 法令として整備されており、インターネットでも閲覧可能。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年2件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 病院安全管理委員会より、リスクマネージャー全体会議及び病院部長会を通じて周知